

## 『エゴ・エイミ』(ヨハネの福音書 18章 1-11節) 2023.2.5.

<はじめに> この時期は教会暦では受難週・イースターに向けての歩みです。今年はじっくりと主の十字架への足跡を追い掛けてみたいと導かれ、ヨハネの福音書を取り上げます。

### I 十字架への道

#### ① 第四福音書

ヨハネの福音書はマタイ・マルコ・ルカよりも遅れて、AD1 世紀末に記されました。記者は12 弟子の一人ヨハネで、本書内にも「主に愛された弟子」と称して登場しています。3 福音書に描かれていない独自の記事も多々見られます。

#### ② 十字架物語

ヨハネの福音書13-19章が十字架の一日です。13-16章の最後の晩餐での教えに続き、17章にはイエスのとりなしの祈りが、18-19章では捕縛・裁判・処刑・埋葬が綴られます。今回はこの18-19章を順次読み進みます。

#### ③ 園の中へ(1-3)

最後の晩餐の席を立て、主と弟子たちはキデロン谷の向こうのゲッセマネの園(マタイ26:36)に向かいます。イスカリオテ・ユダはイエスを引き渡そうと、ユダヤ指導者の下役・ローマ兵とともにその機会を伺います。イエスに危機が迫っていました。

### II イエスは進み出て(4-8)

#### ① だれを捜しているのか(4-8)

イエスはユダの裏切りに気付いていたのですから(13:21-30)、ここにも探しに来ると予想して避けることもできたはずですが、わざわざ捕まりに来たようなものです。それどころか武装した一群の前に進み出て、「だれを捜しているのか」と問われます。

#### ② 「わたしがそれだ」(5,6,8)

イエスは自ら名乗り出られます。彼らが自身に何を企み、行おうとしているかを分かった上で、自発的に意識的に進み出られました。反対者の謀略と力に屈服されたからではありません。その毅然とした態度に敵は怯み、地に倒れます。イエスに威厳があったからです。

#### ③ エゴ・エイミ

この言い回しはイエスが多用されたものです(6:35; 8:12; 10:7・14; 11:25; 14:6; 15:1・5)。また8:24脚注にもある、神の自己顕現(出エジプト3:14)の表現です。厳しい状況にあっても、イエスは神を捜し求める者に、ご自身こそ神であると証しされています。

### III イエスは堂々と

#### ① すべて知っておられた(4)

イエスはこれから我が身に起こることを全部ご存じでした。それは苦しく恐ろしい道です。私たちならどうするでしょう。イエスは十字架に向けて堂々と踏み出されます。イエスのうちにある確信と平安は、神の御計画をしっかりと受け止めておられた故です。

#### ② 成就するため(9)

イエスは弟子たちにも捕縛の手が及ばぬよう立ちをはだかられます。17:12の祈りを成就するため、彼らの身代わりとなるためです。ペテロを諫め、マルコスの耳を癒された(ルカ22:51)のも、彼らへの追及を止めるためでした。

#### ③ 主導権を握るイエス

イエスはこの状況と人々の計略に翻弄されて、捕らえられたものではありません。身体は縛られ捕らえられても、なお主導権はイエスが持っておられ、すべては神の御計画通りに動いています。このイエスを主と仰ぐ者は、この世でイエスのように歩めるのです。

<おわりに> 十字架で死なれたイエスを世は敗北者とみるかもしれませんが、しかし、聖書を読むとこの方は十字架へと進む道においても神の子キリストであり、すべてを支配される御方だと分かります。その主の姿は、厳しい中を歩む私たちにとって励ましであり、希望です。(H.M.)